

No.252(一九八五年一月一・二日合併号)から
No.286(一九八五年二月二一日)まで

No.252(一九八五年一月一・二日合併号)

◇巻頭言◇ 新年にあたって

◇岩井章氏に聞く◇ 方針をもって自覚的にたたかえ

— 現情勢の特徴と課題 —

『道』 廃棄反対の「物質的な力」の構築を！

— 社会党四〇周年と党大会に向けて —

社会党は原則と原点に立ち返れ — 「ニュー社会党」の現実論 —

教育臨調とは何か — その本質とたたかい —

何からはじめるべきか — 実践マニュアル① —

書評「榎田民蔵・日記と書簡」

No.253(一九八五年一月二一日)

◇巻頭言◇ マルクス主義は旧くなったか

たたかう国労の仲間たちと共に

いまはやり甲斐のある時期 — 国鉄労働運動前進への任務と課題 —

マルクス主義の俗流化を許すな — 『家族・私有財産・国家の起源』を読む① —

◇投稿◇ 「構想」の全面凍結を！

通信衛星の軍事利用 — 本格的軍事利用への第一歩 —

資料1 社会党「原対協」臨時総会・決議(全文)

◇読者からのおたより ◇編集部だより

No.254(一九八五年二月一日)

◇巻頭言◇ 一九八五春闘は「天下分け目」の闘い

「チエある闘争」で職場から闘う — 何からはじめるべきか② —

国家論—鎌倉孝夫氏の所説に関連して

— 『家族・私有財産・国家の起源』を読む②

右派幹部と労働運動の「構想」

— 「社会労働評論」一二月号を斬る —

資料1 社会党全国大会草案への意見書(高松総支部)

◇資料と解説◇ 総評が「五項目補強見解」を放棄

資料2 五項目補強見解に関する状況と今後の取り扱いについて

資料3 全労協の連合体移行の

論議開始に対する総評の対応について

ゼネストで闘う準備をはじめよ

◇読者からのおたより ◇編集部だより

No.255(一九八五年二月一日)

◇巻頭言◇ 向坂先生の「理論と実践」を受け継ごう

「インターナショナル」に涙

向坂氏を悼む

岩井 章

原發方針修正と社会党大会の意義
資料国民の共有財産Ⅱ国鉄の破壊を許さず全党をあげて阻止しよう
生産性基準原理、行革推進を呼号

―日経連「労働問題研究委報告」の本質―

「三項目」「首切り」「攻撃と闘う」―何から始めるべきか実践マニュアル③―

米ソ軍縮交渉へのゴーサイン

◇読者からのおたより ◇編集部からのお願

No.256(一九八五年二月二日)

特集 向坂逸郎先生を語る

◇巻頭言◇ 向坂先生の著作を読む

わが兄・向坂逸郎

向坂 正男

詩その時―八五年一月二四日の心象風景

稲田 芳朗

或る日の石井柏亭と向坂先生

百瀬 嘉郎

◇座談会 向坂逸郎先生を語る◇

岩井 章・灰原 茂雄

先生のまいた種を育てる

吉田 憲夫

「CO特別立法」と向坂先生

山下 開

闘病の中でも私に勇氣

滝野 嘉津子

「よくねむりなさいよ」と電話

大木 五郎

生き方を決めた先生方との出会い

村松 七郎

「土づくり」で意見交換

小林 隆

向坂先生は生きつづける

平岡 幸雄

私たちの背中に先生の笑顔がある

池村 武司

著書の大半執筆ゆかりの松本・扉温泉

No.257(一九八五年三月一日)

◇巻頭言◇ 先生の著作に学びなおす

社会党第四九回大会と路線問題 ―総括への基本視点―

◇投稿◇ 右傾化に強まる反抗 ―社会党第四九回大会について―

資料 「五項目」放棄で総評三顧問が意見書

書評 山崎八郎著『芸術は永遠か』

特集 向坂逸郎先生を語る

規則正しい毎日の生活

富田 敏美

日本のマルクス・向坂逸郎先生

中澤 秀行

先生からの手紙で仲間づくりへ

小林 房夫

生まれた子供に先生の名

浅野 隆雄

先生のサイン本は「宝物」

橋詰 弥生

編集部だより

No.258(一九八五年三月一日)

◇巻頭言◇ たたかいのなかで討報きく

敵に鍛えられ成長 ― 国労甲府駅分会一五年のあゆみ―

どんなに苦しくても闘いつづける ― この仲間たちとならやっていける―

「古典」と現代労働運動 ― 「古典」は今でも新しい①―

反独占・社会主義の路線が生命 ― 社会党大会とその課題―

特集 向坂逸郎先生を語る

“知は力”を胸に

「先生が死んだのはデマだ!」

先生は国鉄闘争に生きている

先生から学んだことを若者へ

国労、「総学習運動」を開始

谷 新一

徳永 晴美

今井 伸

山本 順一

No.259(一九八五年三月二一日)

◇巻頭言◇一九八五春闘への基本視点①

「向坂逸郎先生追悼集会」に二千人

「古典」と現代労働運動② ― 改良闘争と改良主義―

『社会主義への準備―先進国革命をめざして』について

階級闘争はどこでも同じ ― 英炭労のたたかいと日本労働運動―

エチオピアの飢餓と資本主義の宣伝

特集 向坂逸郎先生を語る

『青年に寄す』を心に

「向坂逸郎との対話」を準備したい

火山のような情熱

先生との出会いで社会主義者に

先生から学んだこと

松里 福慈

加茂 詮

鈴木 千鶴子

稲村 守

富久尾 忠

No.260(一九八五年四月一日)

◇巻頭言◇ 激動必至の国際情勢

一九八五春闘―情勢の特徴と課題

「整合性」論で方針案は一致―春闘後退の真の背景―

破綻した「整合性」論―「整合性」論の本質―

一九八五春闘と社会党―全民労協路線のおちゆく先―

◇投稿◇ 春闘再生は“要求に自信”をもつことから

― 青年団結集会で考えたこと―

向坂逸郎先生を語る 一人ひとりの努力が社会主義をつくる

小学生のとき講演きく

向坂先生の「大書」

◇読者からのおたより

◇編集部だより

関 光子

布上 泰

川原 虎雄

No.261(一九八五年四月一日)

◇巻頭言◇ 社会党大会の教訓と国鉄闘争
英炭鉱ストの教訓

帝国主義的強盗の哲学

全民労協加盟、公労協脱退を決定 — 全電通第三八回臨時大会から —
資料綱領の改正(全電通の新綱領・全文)

小田原市にみる全民労協地域版 — 「小田原地域民間労組連絡会」が設立 —

◇向坂逸郎先生を語る◇

「私から離れたら、落ちるのは早いよ」

社会党の「新宣言」作成手順

佐々木 守雄

No.262(一九八五年四月二一日)

特集・国鉄闘争の現段階

◇巻頭言◇ 国鉄闘争の経過

「行革」は国鉄闘争前進の条件をつくる — 労働運動をめぐる情勢の特徴①

資料1 国労闘争第五〇号 (全文、八五・二・一四)

資料2 第一四三回国労中央委・書記長集約(抜粋、八五・三・六)

資料3 国労東京地本の要請 (全文、八五・三・一七)

資料4 公労委仲裁裁定(全文、八五・四・四)

◇資料と解説◇ ついに天皇賛美へ(全民労協の本質)

資料宇佐美同盟会長の弁明

No.263(一九八五年五月一日)

◇巻頭言◇ 「五%賃上げ」でふえるのは百円玉三個

「行革」で矛盾の拡大は必至 — 労働運動をめぐる情勢の特徴②

労戦再編成の現段階

新電電発足と今後の動向

国労、五月に臨時全国大会

資料 国労指令第一二号(抜粋、八五・四・一〇)

東京で「国鉄労働者支援共闘会議」結成へ

国鉄の仲間たちが「向坂先生追悼集会」 — 四月二七日に千代田公会堂で —

書評「悲しみを反独占の怒りにかえて」(林大鳳氏追悼文集)

No.264(一九八五年五月一日)

特集・「行革」攻撃とたたかう

◇巻頭言◇ 『資本論』一卷を読む

徹底的な人べらし合理化の開始 — いよいよ本格化する地方行革 —

一九八五国民春闘と教育臨調 — 反行革、反臨教審のたたかいを職場から —

資料 二十一世紀の要請する教育(天谷直弘・臨調審第一部長)

◇千葉からの報告◇ 国労と連帯し反行革統一闘争を強化しよう

資料 反行革統一闘争を強めるために

資料 全民労協「連合組織構想検討委」メモ(全文) —

No.265(一九八五年五月二一日)

特集「行革」攻撃とたたかう

◇巻頭言◇ 緊迫化する中米情勢

新たな局面に突入した国鉄闘争

「競争原理」導入をめざす — 臨教審の本質と教育労働者の任務① —

資料学校教育活性化のための七つの提言(一九八四年三月世界を考える京都座会)

現実の大衆運動にとびこめ — 二六一号「巻頭言」を考える —

連載『資本論』第一巻を読む① 第一章第一節(第一—第四パラグラフ)

読者からのおたより

No.266(一九八五年六月一日)

◇巻頭言◇ 小集団学習で基礎体力をつくる

「国鉄労働者支援共闘会議」が発足

日東タイヤ闘争—全面勝利へ

異常軍拡のメカニズム

古くて新しいフアシズム

「生産性運動」の過去、現在、未来

連載『資本論』第一巻を読む② 商品の価値と交換価値①

国労、五月二七日から臨時全国大会

書評 「千葉社会党のあゆみ」を読んで

◇読者からのおたより ◇編集部だより

No.267(一九八五年六月二一日)

◇巻頭言◇ ボン・サミットを分析する

「競争原理」を打ち破る — 春闘総括にむけて① —

◇資料と解説◇ 連合体移行で総評は解体の危機に

資料全労協の「連合組織構想」中間報告(全文)

◇資料と解説◇ 社会党が「新宣言」要綱を提示

資料 日本社会党の新しい宣言レジュメ(全文)

連載『資本論』第一巻を読む③ 商品の価値と交換価値②

No.268(一九八五年六月二一日)

◇巻頭言◇ 二つの文書

がっかりしてはられない — 国労臨時全国大会の総括①

拡大する矛盾の傾向をつかむ — 春闘総括にむけて②

炭鉱労働者の経験を無にするな — 高梨氏の国鉄「離職者対策」を批判する —

連載『資本論』第一巻を読む④ 商品の価値と交換価値③

教育労働運動通信

・憲法改悪と有事体制づくりを戦略に、戦後民主教育と日教組解体を目指す教育臨調の

本質を徹底的に暴露! ・本誌は教育臨調と労戦右翼再編に抗して各地で奮闘する活動

家たちの闘争報告と問題提起を中心に編集するユニークな教育闘争マニュアル。すべて

の単産・地域活動家必読の季刊誌

No.269(一九八五年七月一日)

第二自民党宣言となった「新宣言草案」―日本社会党を守ろう―

資料1 「新宣言レジメ」(高沢寅男)

資料2 「新宣言試案」(島田琢郎)

資料3 「新宣言」作成についての提言(北山愛郎)

方針樹立のための条件は何か

―国労臨時全国大会の総括②―

敵とたたかうために ―国労第四七回臨時大会について―

◇読者からのおたより

◇編集部だより

No.270(一九八五年七月一日)

全民労協「中間報告」反対の明確な態度を

―今夏の総評・各単産大会の課題―

二一世紀にむけた政府・独占の教育政策

―臨教審第一次答申の本質と教育労働者の任務―

朝鮮半島の新しい情勢①

連載『資本論』第一巻を読む⑤ 労働のもつ二面的性質①

◇読者からのおたより

◇編集部だより

No.271(一九八五年七月二一日)

◇巻頭言◇ 都議選と社会党の「新宣言」

「分割・民営化」とどう対決するか ―国労第四七回臨時大会の総括③―

「北の変化」の本質 ―朝鮮半島の新しい情勢②―

革命七周年を迎えたアフガニスタン

◇投稿◇ 思想攻撃に抗し、反撃の体制を!

書評「労働者思想の確立」を読む

拡大する「資本論」研究会

連載『資本論』第一巻を読む⑥ 労働の二面的性質②

No.272(一九八五年八月一日)

「新宣言(草案)」を許すな

日本社会党の再生を望む

千葉県における首長選挙と労組幹部

資料「国家機密法」(全文)

統一闘争について ―国労第四七回臨時大会の総括④―

せまる国鉄答申をさぐる

連載『資本論』第一巻を読む(七) 労働の二面的性質③

読者からのおたより

No.273(一九八五年八月一日)

◇巻頭言◇ 総評大会と日教組の修正案

新生ニカラグアはなぜ強い ―革命六周年式典に五〇万人―

変わらない帝国主義の本質 ―朝鮮半島の新しい情勢③

都議選の総括と展望 ―地方から都議選を考える―

連載『資本論』第一巻を読む(八) 単純な価値形態①

◇編集部だより

◇読者からのおたより

No.274(一九八五年八月二一日)

特集・労働運動をめぐる情勢と組合大会①

◇巻頭言◇ 確信と展望をもつ

労働組合大会をめぐる情勢

一、組合大会の焦点

二、全民労協と日本労働運動

三、〃解体の条件〃を示した同盟

四、中連はICFTU一括加盟へ

五、ナショナルセンター化に努める統一労組懇

六、日経連は長期戦略を模索

七、〃労研センター〃は着実に前進

日教組の修正案と総評大会 ―総評大会と今後の労働運動―

あるグループの〃労働者宣言〃を読む

No.275(一九八五年九月一日)

◇巻頭言◇ 国鉄「最終答申」の意味するもの

「情報化時代」と社会党の「新宣言」

資料 「新宣言」草案批判と私の提言

労働組合をめぐる情勢と組合大会②

一、はじめた左派の反撃(日教組)

二、社会党右傾化に全力(電機労連)

三、全電通は総評の「解散」を提唱

連載『資本論』第一巻を読む⑨ 単純な価値形態②

No.276(一九八五年九月一日)

◇巻頭言◇ 「新宣言」を考える

◇組合大会をふりかえる①◇ 左派組合の反撃開始

一、現代と日本労働運動

二、〃左翼バネ〃の役割發揮(日教組)

三、国労大会でも〃修正案〃

四、私鉄では中央委で方針案を修正

労働運動をめぐる情勢と組合大会

資料 「新宣言」草案への基本的見解(平和戦略研・全文)

連載『資本論』第一巻を読む⑩ 単純な価値形態③

No.277(一九八五年九月二一日)

◇巻頭言◇ 社会党の「新宣言」と中執案

資料1 「新宣言中執原案」作成にあたっての意見書(上野建一)

資料2 「新宣言」草案についての意見(新潟県本部)

資料3 「新宣言」(案)に対するわれわれの見解と意見(新生研)

資料4 われわれはこう考える(社会主義協会)

資料5 「原対協」決議

ワシントンの火遊び — S D Iで戦争の危険は増大—

連載『資本論』第一巻を読む⑪ 単純な価値形態④

No.278(一九八五年一〇月一日)

◇巻頭言◇ 社会党の中執案と中曽根の国家論

◇京都からの報告◇ お蔵入りすべきは「新宣言(草案)」

◇組合大会をふり返る②◇ 総評再生は国鉄闘争から

◇資料と解説◇労働再編問題の正念場はこれから

資料 全民労協「連合組織の進路(案)」①

スタンダード闘争その後

K A L機の悲劇から二年

世界祭典で学んだ資本主義国の闘い

イラン革命の運命

No.279(一九八五年一〇月一日)

◇巻頭言◇ 『保革連合』路線に未来はない

三川鉦大爆発から二二年—C O患者・家族の実態と闘いは今—

資料① 四氏のアピール(三池C O闘争の勝利をめざして)

資料② 三池C O闘争の経過

総評と同盟の対立は激化へ

資料③ 全民労協「連合組織の進路」②

連載『資本論』第一巻を読む⑫ 単純な価値形態⑤

No.280(一九八五年一〇月二一日)

巻頭言◇ 社会党の「新宣言」と政党支持問題

『保革連合』論が浮き彫りに —新宣言(中執案)の問題点—

今や「読売」の不買運動も必要 —「一%」問題と新聞論調—

みせかけの譲歩で目先きを転換 —総評批評と労働再編問題—

資料1 全民労協「連合組織の進路」③

多数派結集のモデルはすでにある —国鉄「民営・分割」反対の闘い—

資料2 国鉄労働者支援共闘会議「基調報告」

◇読書案内◇ へいわの本—D D R詩文集

連載『資本論』第一巻を読む⑬ 単純な価値形態⑥

◇読者からのおたより◇編集部だより

No.281(一九八五年一月一日)

◇巻頭言◇ アフリカの食糧危機の原因

教育荒廃克服の「標的」 — 教職員の「資質」問題①

資料①臨教審第三部会の素案(要旨)

国鉄「答申」の問題点とわれわれの要求

— 国鉄労働者支援共闘会議「基調報告」②

アフガニスタンの選挙と「欺瞞のドクトリン

ニカラグア憲法の審議はじまる

No.282(一九八五年一月一日)

◇巻頭言◇ 「豎山提案」と総評

改良闘争と改良主義 — 研究会をふりかえって—

民営化から半年、全たばこ労働者はいま — 民営化後の職場実態と課題—

困難な情勢—われわれの方針は？

— CO 闘争とわれわれの課題①—

連載『資本論』第一巻を読む⑭ 単純な価値形態(七)

◇パンフレットご購入のすすめ◇ 『たたかひの条件3』

読者からのおたより

No.283(一九八五年一月二一日)

◇巻頭言◇ 五千万署名成功に全力をあげよう

米・ソ首脳会談への基本視点

民営化から半年、NTT労働者はいま

◇資料◇ 三池闘争の新局面

連載『資本論』第一巻を読む⑮ 単純な価値形態(八)

「労研センター」全国一交流会へのご案内

◇編集部だより

◇読者からのおたより

No.284(一九八五年二月一日)

◇巻頭言◇ 労戦再編問題とわれわれの課題

沖縄バス労働者三五〇人の「整理問題」

職場・家族・地域一体でたたかう — 国鉄の「分割・民営化」攻撃に抗して—

資料 「新宣言(案)」に学者・文化人が「要望書」

◇資料と解説◇ 郵政省の「新労務管理指針」

資料活力ある郵便局をめざして⑮

連載『資本論』第一巻を読む⑯ 単純な価値形態(九)

◇パンフレットご購入のすすめ◇ 「戦後政治の総決算」との対決

燎原の火(現地における反原発闘争の概要)
読者からのおたより

No.285(一九八五年二月一日)

◇巻頭言◇ 社会党の「新宣言」と運動方針

◇臨教審の本質と教育労働者の任務③◇
教育荒廃の「標的」

◇K・A・ハチャトウロフ氏に聞く◇

七〇年代以後のラテンアメリカ情勢

反対の立場で修正案提出へ ―千葉県本部「新宣言」に態度決定―

資料郵政省の「新労務管理指針」①

活力ある郵便局をめざして

No.286(一九八五年二月二日)

◇巻頭言◇ 米ソ首脳会談の結果と日本

労働運動の総路線 ―八六年のたたかいを展望して―

国鉄闘争の現状と問題点

資料国労第一四四回中央委「特別決議」

◇資料と解説◇ 社会党「新宣言」に相次ぐ意見書

資料1 原対協が「新宣言」で申し入れ

資料2 「新宣言」に対する意見書(東大阪支部有志)

連載『資本論』第一巻を読む⑱ 拡大された価値形態